

提言のフォローアップについて

1. 前回までの委員会での検討

(第 15 回資料 4「公表時及び公表後のフォローアップに向けて」より一部抜粋、加筆)

26 期の残る期間において、提言としてまとめた内容を「実装」するための活動が必要

(1) 公開行事のテーマの草案 (→現時点の企画書は今回資料 4)

- ・ これまでほとんど明示的に議論されてこなかった「移行」にフォーカスした公開行事を企画することで、移行の必要性自身を周知すること、移行先のイメージ（どんな社会を実現したいのか）の共有、移行過程（何をすれば辿りつけるのか）、バックキャスト的なアプローチの適用可能性などについて議論する場を設定。
- ・ 産官学連携とくに産学連携で、今後何ができるのか（これまでできなかったのはなぜなのか）（再掲）→学術で考えていることと、政策、ビジネスで求めている情報のギャップ。両者を繋ぐ人材の必要性（提言 4、ファシリテータ）。

(2) 産業界との対話

- ・ Hard to Abate 産業の脱炭素技術、新産業の振興の両分野での産業界との対話
- ・ 学術界への期待：新材料、新技術（25 期俯瞰図の B. ～D. の分野ごとの取組との連携）

(3) (一般) 国民（とくに若い世代）への情報提供

- ・ 国政選挙でも CN がほとんど論点にならなかった状況の中で、国民に CN の重要性をどう理解してもらうか？（アクションプラン企画 WG での広報委員長からのコメントへの対応）
→8 月 15 日開催の地球惑星科学委員会社会貢献分科会での江守正多教授の話題提供を踏まえ、内閣府：気候変動に関する世論調査の結果の一部を抜粋（第 16 回再配布では省略）出典：<https://survey.gov-online.go.jp/r05/r05-kikohendo/>

2. 総会および記者会見での質疑応答を踏まえたフォローアップの課題

(1) 産・官・学各々への発信

産：アクションプラン企画 WG との意見交換時の検討等をふまえた経済団体との意見交換

官：2026 年 2 月の学術フォーラム登壇内諾済みの 3 省、それ以外の関係府省

学：学術会議カーボンニュートラル連絡会議に加え、関連する学協会、既存の連合体（例：カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション）

(2) 国民への情報発信

本提言の内容そのものよりも、危機感を共有するための気候変動に関する科学的知見、行動変容による削減貢献可能性に関するデータ：省エネだけでなく消費活動全般（例：食品ロス）の背後にある間接排出（カーボンフットプリント）

(3) 地球規模のアクションに向けた海外への発信

先進国と途上国の関係、気候変動対策に対策しない国がある中で、世界を動かす学理が必要

(4) 「俯瞰的かつ具体的な処方箋の第一歩」に続く日本学術会議内の次の一歩

- ・ カーボンニュートラル連絡会議等を通じた連携強化
- ・ いつまでに何をやれば目標達成できるのかについてのシナリオ検討（第 7 回意見聴取参照）
- ・ 第 25 期俯瞰図の B, C, D のうち具体的検討を進めるべき（進めることが可能な）分野